

サン・ピエトロ大聖堂 (内部)



## 二 教宗與歷史

耶穌指派他的首席弟子伯多祿與他的後繼者，領受天國的鑰匙及宗徒之長的職位，這是教宗與羅馬教廷權位的起源。發展迄今教宗已成為天主教會的領袖和梵蒂岡城國的元首。1274年里昂第二次大公會議後，教宗由樞機主教選舉產生。自1492年起，即在羅馬西斯汀教堂舉行選舉至今，教宗為終身職。十一世紀，教宗國瑞七世推動宗教改革，教廷開始積極參與國際事務和宣達理念，在國際關係上抱持超然獨立的立場，並向俗世傳達人人都擁有共享的權力與尊嚴。教宗冠冕禮器深富意涵，「伯多祿鑰匙」代表教宗是繼承伯多祿之權位，其三重冠象徵教宗擁有訓導、聖化、治理三項權力。本單元共選展十三位教宗的禮冠、袍服、配件和禮器，對天主教徒而言是殊聖無比之物。

## 三 禮儀年

天主教一年中的禮儀節期，稱作「禮儀年」。其中包括了聖誕節、復活節和聖神降臨等節慶，用以紀念耶穌基督在世間的重大事蹟。

- ・**將臨期**：為期四週左右，是耶穌降生前的準備期。
- ・**聖誕期**：從聖誕節到耶穌受洗日，為了紀念及慶祝耶穌降生成人。
- ・**四旬期**：復活節前對自身心靈的準備，為期六週左右。
- ・**逾越節三日慶典**：禮儀年的中心與高峰，最神聖的三天，目的是為了幫助信友紀念並在精神靈修上參與耶穌的受難、死亡和復活。
- ・**復活期**：從復活節到聖神降臨，歡慶五十天。
- ・**常年期**：第一分期在聖誕期之後，大約四至八週；第二分期則在復活期之後，為期約六個月。

祝聖候洗聖油時所用油罐(1907年)  
スクラメントで使用されるアンフォラ  
(1907)



## 2. ローマ教皇とその歴史

イエス・キリストは首座使徒の一人であるペトロとその後継者に天国の鍵と宗徒の長たる職位を授けたとされています。これがローマ教皇とローマ教皇庁の起源です。その後、カトリック教会の領袖であり、バチカン市国の元首としての地位が築かれました。1274年に開催された第2リヨン公会議で教皇選挙制度の改善が図られ、教皇の没後速やかに枢機卿達による選出を始めることなどが定められました。1492年からはインスティーナ礼拝堂で選挙が行われるようになりました。この制度は現在まで継続しており、教皇は終身制となっています。11世紀に教皇グレゴリウス7世が教会改革を推進したことにより、ローマ教皇庁も積極的に国際上の実務に参与するようになり、教会改革の理念を広めるべく努めました。ローマ教皇庁は国際的には一貫して独立した立場を保ち、誰もが各々の権利と尊厳を有することを世の人々に訴えました。教皇が身につける教皇冠や聖器には奥深い宗教的意義が込められています。「聖ペトロの天国の鍵」は、教皇がペトロの正統な後継者であることを示しています。教皇が戴く三重冠は「司祭・司牧・教導」の三権を表します。本コーナーでは、歴代13名の教皇が使用した教皇冠や祭服、聖器や小物などが展示されます。いずれの器物もカトリック信者にとっては非常に貴重で神聖なものです。



天主之僕教宗碧岳七世  
(1800-1823在位) 三重冠  
ピウス7世(在位期間1800-1823)  
の三重冠

## 3. 教会暦

カトリックの年中行事は「教会暦」に沿って行われます。イエス・キリストの偉大な事跡を記念するクリスマスや復活祭、聖霊降臨祭などの行事があります。

- ・**待降節**：イエス・キリスト降臨前の準備期間にあたり、約4週間あります。
- ・**降誕節**：クリスマスからイエスの洗礼日までを言い、イエス・キリストの誕生を祝います。
- ・**四旬節**：復活祭前の準備期間で約6週間あり、心を清めて復活祭を待ちます。
- ・**逾越の聖なる3日間**：教会暦の中心的行事で、クライマックスでもあります。この最も神聖な3日間に、信徒らはキリストの受難と死亡、復活に思いを馳せつつ精神を高めます。

## 四 祭臺

天主教的祭臺大多以石材製作，是教堂內舉行各種重要禮儀的主要空間，同時也是耶穌身體臨在的象徵。它也是天主教慶祝彌撒中聖祭禮儀時「主的餐桌」。在餐桌上，神父祝聖無酵餅和葡萄酒，使之轉化為耶穌基督的聖體和聖血，成為信友們的生命食糧和精神飲料。置於祭臺上或祭臺旁的蠟燭，則意謂著耶穌為世界的黑暗帶來光明。主的餐桌很自然的令信友們聯想起耶穌與門徒的最後晚餐，以及耶穌無條件為罪人犧牲生命的偉大情操。



真福教宗碧岳九世(1846-1878在位)  
の聖爵與聖盤  
ピウス9世(在位期間1846-1878)  
の聖杯と聖皿

## 五 聖事

舉行七件聖事慶典是天主教最重要的禮儀，藉由聖事，信友們可以經驗到天主真實的臨在，並領受恩寵。這七件聖事包括：

- 一、聖洗聖事：滌除原罪，為信友開啟成為天主教會大家庭一員之門。
- 二、堅振聖事：受洗過的信友，可領受豐厚神恩，堅定信仰生活，並見證天主之愛。
- 三、感恩聖事：藉由恭領耶穌聖體、聖血，使信友與基督天人合一。
- 四、和好聖事：經由天主原諒信友的過失，信友才能與天主及他人重歸和好。
- 五、傅油聖事：透過天主恩寵，對信眾身體和心靈上的病痛，給予安撫與治癒。
- 六、婚姻聖事：結合一男一女，以自我犧牲奉獻的愛，願意終身相守的盟約。

- ・復活節：復活祭から聖神降臨までの50日間を指します。
- ・年間：降誕節の後、約4週から8週間が第1期とされます。復活節の後、約6か月間が第2期とされます。

## 4. 祭壇

カトリックの祭壇は石材で作られたものが多く、教会の大切な典礼の数々は主にこの祭壇上で行われます。祭壇はキリストの象徴でもあり、カトリックのミサ聖祭では「主の食卓」とされます。神父は祭壇にイースト菌を入れずに焼いたパン（ホスチア）と葡萄酒を供え、パンをキリストの聖体、葡萄酒を聖血とします。この二つが信者らの魂の食料と精神の飲料になります。祭壇上とその脇に置かれたキャンドルは、キリストの光がこの世の闇を照らすことを意味しています。「主の食卓」は、キリストと弟子達とともにした「最後の晚餐」と、罪人のために命を捧げた偉大な神をこく自然に連想させます。

## 5. 七つの秘跡―サクラメント

「七つの秘跡」はカトリックの大切な儀式の一つです。この儀式を通して信者は神の存在をその身で感じ、その恩寵を授かることができます。「七つの秘跡」の内容は次の通りです。

1. 洗礼：洗礼によって原罪とそれまでの罪が赦され、カトリック信者の一員となります。
2. 堅信：洗礼を受けた信者は神の恩寵を授かって信仰心をより強くし、神の愛を実感します。
3. 聖体：キリストの聖体（パン）と聖血（葡萄酒）をいただくことによって、神と信者の結びつきは一層強まり、信仰を深めることができます。
4. ゆるし：犯した過ちが神によって赦されます。悔い改めて回心した信者は再び神と他の信者らとともに清らかな信仰生活を送れます。
5. 病者の塗油：聖なる油を塗って、信者の身体と心の病の痛みや苦しみを和らげて癒します。
6. 婚姻：一組の男女が互いに助け合い、終生変わらぬ愛を約束します。
7. 叙階：男性信者は司教や司祭、助祭などの聖職に就け、神と教会、信者に奉仕することができます。

教皇聖器收藏室には、聖杯や聖皿、ピックス（聖体容器）、ミサ用の鈴、小さなロウソク台、水差し、聖体顯示台、聖油入れなどが保管されています。いずれの聖器も教皇が七つの秘跡を執り行う際に用いる祭器です。

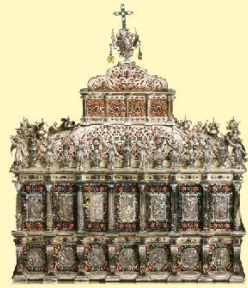
七、聖秩聖事：天主教男性教友、可依聖秩被祝聖為執事、司鐸和主教，為普世教會和天主子民服務。

在教宗聖器收藏室中，保有聖爵、聖盤、聖體盒、鈴鐘、小蠟燭臺、水壺、聖體光座、油罐等，均是教宗在執行七項聖事所使用的各種禮器。

## 六 聖教東傳

聖方濟各沙勿略（1506-1552）は耶穌會の七位創始人之一。1540年，教宗保祿三世（1534-1549在位）批准成立耶穌會後，他在葡萄牙王約翰三世（1502-1557）の請求下，前往東方傳教。隨後，將天主教傳播到印度、麻六甲、摩鹿加群島和日本等地。1552年，病逝於廣東外海的上川島，未能踏入中國本土傳教。

沙勿略死後三十年間，中國因正逢倭患而實施海禁，教會一直無法順利入華宣教。1573年，范禮安（1539-1606）出任耶穌會東方視察員，主張不宜採直接傳教法，以學習當地語言並熟習當地社會民情風俗作為準備。九年後，1582年12月，羅明堅（1543-1607）和利瑪竇（1552-1610）終於成功抵達廣東肇慶，建立了「僊花寺」。利瑪竇前後駐足韶州、南昌、南京和北京等地，最後長眠於北京。在華期間，他與中國士大夫交遊，探行知識傳教的策略，與奉教士人徐光啟等合作翻譯西學書籍，介紹當時歐洲的自然哲學、音樂、曆法和數學等知識。利瑪竇及隨後而來的傳教士們，不但擴大了天主教的宗教影響力，也積極拓展東西雙方的交流和認識。



聖方濟各・沙勿略(1506-1552年)  
聖爵與聖體箱  
フランシスコ・ザビエル(1506-1552)  
の聖骨箱と聖遺物

## 6. 東方への布教

フランシスコ・ザビエル（1506-1552）はイエズス会の創始者7名の内の一人です。1540年にローマ教皇パウルス3世（1468-1549、在位期間1534-1549）によってイエズス会が認可されると、ポルトガル王のジョアン3世（1502-1557）の求めに応じて、伝教のためにアジア地域へと旅立ちました。その後、カトリックはインドやマラッカ王国、日本などへ伝えられました。ザビエルは1552年に広東外海に位置する上川島で病により逝去し、中国大陸への伝教はついにできませんでした。

ザビエルの死後30年間、明朝に倭寇禁圧と密貿易取締りのために海禁令が発布され、宣教師たちも中国大陸での布教を果たすことができませんでした。1573年にアレサンドロ・ヴァリニャーノ（1539-1606）がイエズス会東インド管区の巡察師となりました。ヴァリニャーノは直接的な布教方法に異を唱え、布教の前にその国の言語を学び、現地の社会風俗や民族性をよく理解するべきだと主張しました。それから9年後の1582年12月にミケレ・ルッジェリ（1543-1607）とマテオ・リッチ（1552-1610）の二人がついに広東の肇慶に到達し、「僊花寺」を建立しました。マテオ・リッチは韶州や南昌、南京、北京などを訪れ、最後は北京で生涯を終えましたが、中国大陸で過ごした間に士大夫達と交遊を持ち、知識を伝える形で布教を試みたほか、キリスト教徒の徐光啟などと協力して西洋の書籍を翻訳し、ヨーロッパの自然哲学や音楽、暦法、数学などの知識を紹介しました。マテオ・リッチとそれに続く宣教師たちは、カトリックの影響力を拡大しただけでなく、積極的に東西の交流と相互理解を促進させたのです。



《程氏墨苑》  
明萬曆滋陽堂原刊本  
「程氏墨苑」  
明万曆滋陽堂原刊本